

萩市企業景況調査

DI方式

平成30年 4月～ 6月期 実績
平成30年 7月～ 9月期 予測

DI (ディフュージョン・インデックス) 方式とは?

DIは各調査項目について判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値は景気の上向き傾向(「良い」)の回答割合が多いことを示し、マイナスの値は景気の下向き傾向(「悪い」)の回答割合が多いことを示す。

◎DI = (増加・好転など「良い」の回答割合)
- (減少・悪化など「悪い」の回答割合)
※設備投資は割合(%)

《調査機関》萩商工会議所

依然として厳しい地域経済。人材の確保難が続く。

景況の概要

平成30年7月実施の景況調査の集計結果は以下のとおり。(調査対象企業：萩市内60社、回収率100%)

生産・売上 前期比は、建設業が減少、サービス業が横ばい、それ以外の業種は増加(平均6.7%)。前年同期比では製造業が横ばい、それ以外の業種は減少となった(平均▲21.7%)。今後(7～9月期)の見通しでは、小売業と観光関連業が減少、それ以外の業種は増加すると予測(平均8.3%)。

収益 前期比は、建設業が減少、卸売業とサービス業は横ばい、それ以外の業種は増加(平均0.0%)。前年同期比はすべての業種で減少(平均▲21.7%)している。今後(7～9月期)の見通しでは、小売業、観光関連業が減少すると予測し、それ以外の業種は増加すると予測(平均6.7%)。

資金繰り 前期比は、観光関連業が好転、建設業が横ばいで、それ以外の業種は悪化(平均▲10.2%)。今後の見通しでは、小売業が横ばい、それ以外の業種は悪化と予測しており、厳しい状況が続くものとみられる(平均▲10.2%)。

従業員数 製造業は過剰感、それ以外の業種は不足感があるという結果となった。

経営上の問題点 ①人材確保難31.0%、②需要の停滞29.3%、③人件費等経費の増加、仕入れ価格の上昇、設備・店舗の老朽化10.3%の順となった。

今後の業界動向 各業界の景気見通しは、全業種とも停滞と予測。特に建設業が▲50.0%と指数が大きい。

景況に関する生の声 ■人手不足(建設業)。■町全体的に活気が感じられない(印刷業)。■水揚げが減少しているのに商品が動かず、業界が困っている(海産物加工)。■地元企業の事業停滞や悪化を感じる(事務用品卸)。■昨年と比べ生産量が減少(水産卸)。■取引先の設備変更に伴い需要が低下。人材育成も難しい(燃料販売)。■4月はレジャー用品等の売上が好調。5月以降、梅雨対策で雨具等関連商材が好調だった半面、客数の伸び悩みで全体売上は低迷。大阪北部地震の影響で関西圏を中心に災害関連商材が伸長した(大型店)。■地方では高額品の販売が低迷している(専門品店)。■観光客が少ない(飲食業)。■需要の変化に伴い、先行き見通しが立てづらい。小売業と製造業のバランスが崩れている(特産品販売)。■西日本豪雨の影響により物流、交流人口への影響が懸念(旅館)。

項目 / 業種		建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	観光関連業	平均	前年平均	前々年平均
生産・売上	前期比	▲10.0	10.0	10.0	10.0	0.0	20.0	6.7	14.5	10.3
	前年同期比	▲10.0	0.0	▲70.0	▲10.0	▲10.0	▲30.0	▲21.7	▲13.0	▲31.0
	30年7月～9月期見通し	20.0	20.0	10.0	▲10.0	30.0	▲20.0	8.3	3.7	10.3
収益	前期比	▲30.0	10.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	3.5	5.2
	前年同期比	▲30.0	▲10.0	▲40.0	▲10.0	▲30.0	▲10.0	▲21.7	▲16.1	▲24.1
	30年7月～9月期見通し	40.0	30.0	10.0	▲30.0	20.0	▲30.0	6.7	▲5.4	3.4
資金繰り	前期比	0.0	▲40.0	▲10.0	▲11.1	▲10.0	10.0	▲10.2	▲3.5	▲22.8
	30年7月～9月期見通し	▲10.0	▲20.0	▲10.0	0.0	▲10.0	▲10.0	▲10.2	▲16.1	▲12.3
従業員数 30年6月末		30.0	▲10.0	50.0	30.0	50.0	30.0	30.0	31.6	29.3
設備投資	(実績)	20.0	10.0	30.0	20.0	40.0	10.0	21.7	22.8	22.4
	(計画)	40.0	20.0	40.0	60.0	0.0	20.0	30.5	26.3	25.9
業界動向		▲50.0	▲20.0	▲30.0	▲30.0	▲40.0	▲10.0	▲30.0	▲24.6	▲37.9